

しばらくはZoomを用いたオンライン開催を継続いたします。参加方法については、日本医史学会事務局(jsmh@juntendo.ac.jp)にお問い合わせください。

また、本例会でのご発表を随時募集しております。ご希望の方は、演題・希望する月を明記の上事務局(同前)までご連絡下さい。原則として発表者は会員に限ります。

例会記録

日本医史学会 10 月例会

令和3年10月23日(土)
(オンライン)

1. 「本居宣長の医学文書と一字薬名」
吉川澄美(東京都)
2. 第27回富士川游学術奨励賞 受賞記念講演
「白隠禅師の仮名法語にみる「健康」の語の使用」
平尾真智子(健康科学大学看護学部)

日本医史学会 11 月例会

令和3年11月27日(土)
(オンライン)

1. 「徳川幕府の本草政策と『東医宝鑑』の受容」
吉村美香(愛知淑徳大学)
2. 「『彌性園方函』引用医書についての考察」
三鬼丈知(大谷大学)

日本医史学会・日本薬史学会・日本獣医史学会・
日本歯科医史学会・日本看護歴史学会・洋学史学
会 合同12月例会

開催中止

例会抄録

西洋医学の原点, 古代医学文書の解読 ——ガレノス中世写本と校訂本の諸問題

福島 正幸

西洋医学の原点ともいえるガレノスの医学文書に関して、中世写本と校訂本の問題点を中心に報告を行った。

はじめに、プラトンやアリストパネスなどの記述を参照しながら、古代ギリシアにおける書物の歴史、とりわけ文書の保管状況について外観した。またそれと並行して、医学文書の特殊事情、たとえばヒポクラテス『流行病』第1・3巻に含

まれる表現から、天候状況に関する記録が蠟板か何らかの形で集团的に保管されていた可能性について言及した。さらにこれまで日本では触れられたことのないガレノス以外の手による(バッケイオス、グラウキアス、ゼウクシスなど)ヒポクラテスの注解書について触れると共に、古代医学文書の伝承過程について報告した。

このようなパピルス文書は、その後中世写本の